

Party

Vol.10

発行月：平成23年1月

旭川厚生病院広報誌



目次

1. 巻頭言
2. 腱板断裂について
3. 連携医療機関・関係機関のご紹介
4. 総合相談センター便り
5. 部門紹介～薬剤部



JA北海道厚生連の理念

JA北海道厚生連は、組合員ならびに地域住民の皆様生命と健康を守り、生きがいのある地域づくりに貢献してまいります。

病院の理念

私たちは「最も信頼され選ばれる」病院をめざします。患者さまの権利を尊重し、いつでも安心して受けられる医療の提供に努めます。地域住民の健康を守り、農村・地域社会の発展に寄与いたします。

基本方針

1. 患者様中心の医療と安全・快適な療養環境をつくります。
2. 高度医療を推進するとともに、総合周産期医療の確立に努めます
3. 健診事業の充実と高齢者福祉事業の取組みを推進いたします。
4. 医療機関相互の機能連携を推進いたします。
5. 職員の教育・研修を推進いたします。
6. 経営基盤の強化を図り、医療・保健・福祉活動を通じて地域医療に貢献いたします。

患者さまの権利

- 私たちは、患者さまの権利を大切に考えています。
1. 患者さまの権利を尊重いたします。
 2. 適切な医療を平等に受けることができます。
 3. 治療方法を選択することができます。
 4. 十分に納得いく説明をお求めになることができます。
 5. 医療上の個人情報を守ります。
 6. 転院、紹介を希望される場合は、必要な情報を提供いたします。



JA北海道厚生連旭川厚生病院

巻頭言

新年ご挨拶

旭川厚生病院

院長 柴田 好



新年明けましておめでとうございます。

みなさまには、さわやかな新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

日頃から旭川厚生病院をご利用いただきましてありがとうございます。

今年、旭川厚生病院は開院70周年を迎えます。昭和16年1月1日に上川聯保健病院として発足しております。戦前の当時の医療保険制度は未熟であり、この上川地域の人々の健康を守るのは、とても大変であったことだと思います。

多くの方々の力ぞえで、当院は整備され、昭和63年に現在の地に新築移転しています。その後も一貫として「地域住民の健康を守り、農村・地域社会の発展に寄与する」姿勢を堅持してまいりました。

一昨年は日本医療機能評価機構による認定も受け、安全・快適な療養環境の保持を確認しました。以前から他施設に先駆けてPET/CTをはじめ先端的な医療機器も整備しております。

昨年は循環器用X線診断装置(心血管造影装置)を一新しました。また、レントゲンフィルムを必要としないPACSを導入して現像時間待ちを無くしました。

当院の自慢できる医療は三つあります。

一つめは周産期医療、小児救急医療です。子供、母親を大事にする医療です。小児科の基幹病院としてハイリスクの母体や新生児の受け入れを積極的に言い、また、新生児救急車も配備し、地方の小児科医師の大きな支えになっています。このような実績が全国組織NPO法人こども健康フォーラムから評価され、道内初となる本格的な遊び部屋「わくわくる一む」を小児科病棟に設置していただきました。小児科には保育士も常勤しています。

二つめは、「がん」の診療です。道北で初めて「地域がん診療連携拠点病院」の指定を受けてい

ます。外科や婦人科の手術は定評がありますが、からだに負担の少ない内視鏡による手術も多く実施しています。「がん」について自由に相談できる「がん相談支援センター」は患者さんだけでなく、地域の医療施設にも大きな力になっています。昨年、病院別館には患者・家族交流サロン「ミナミナ」(アイヌ語でニコニコ笑い(^-^))の意味)を開設して、ボランティアの方々に運営していただいています。

三つめは、厚生連として行っている病気の予防、早期発見のための健診です。自慢の健診センターでの人間ドックのほか、道北一円の広い地域の巡回健診も行っています。小さな「がん」の発見が期待できるPET/CTによる健診も行っています。

病院の建物は新築した他の公的病院と比較してやや古くなってきております。そのため昨年からリニューアルを行ってきました。昨年末には直営の売店をコンビニの「ローソン」に転換しました。今春にはコーヒーショップ「ドトール」に入ってください予定です。みなさんの見えないところで、手術室もひとつ増設することになっています。当院での整形外科や産婦人科の手術が増加して、手術待ちが目立ってきていることからです。

いつもご意見箱に、お叱り、要望、激励、感謝のことばなどを沢山いただいております。経営職・管理職全員が真摯に読ませていただき、また院内情報誌を通して全職員が読むことになっております。施設や業務の改善・見直しに、大きな力となっています。この場を借りてお礼申し上げます。

私たちは、「最も信頼され選ばれる病院」をめざし、患者さんが安心して高度な医療を受けていただける病院にしたいと考えています。

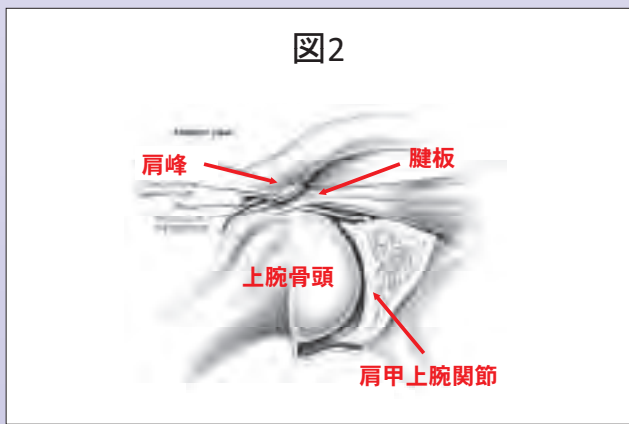
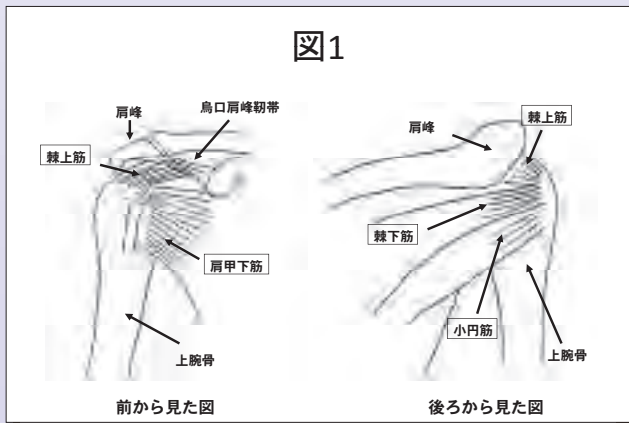
本年もよろしく願い申し上げます。

腱板断裂について

整形外科 堀籠圭子

原因と病態

腱板は前方から肩甲下筋、棘上筋、棘下筋、小円筋の4つの腱から成り、それぞれの腱が一体化して上腕骨を覆っています(図1)。腱板断裂の背景には腱板が肩峰と上腕骨骨頭にはさまれているという解剖学的関係(図2)と、腱板の老化がありますので、40歳以降の病気といえます。発症年齢のピークは60代です。断裂は棘上筋腱に多くみられます。明らかな外傷によるものと、はっきりとした原因はなく、日常生活の動作で断裂します。



断裂が生じた後の自然経過は、自然治癒はせず、時間の経過とともに断裂部は大きくなり、筋肉の萎縮が進行します。

断裂のタイプには完全断裂と不全断裂がありますが、不全断裂の症状が軽いということはありません。

せん。

若い年齢では、投球肩で不全損傷がおきることがあります。

症状

夜間痛、運動時痛、肩の運動障害を訴えます。夜間痛は、仰向けで寝ると強く、一時的に起きあがり、肩を少し動かしたり、座ると楽になることが多いという特徴があります。運動時痛はありますが、多くの患者さんは、肩の挙上が可能です。肩を挙上するときに入力が入らない、挙上するとき肩がゴリゴリという軋轢音がするという訴えもあります。

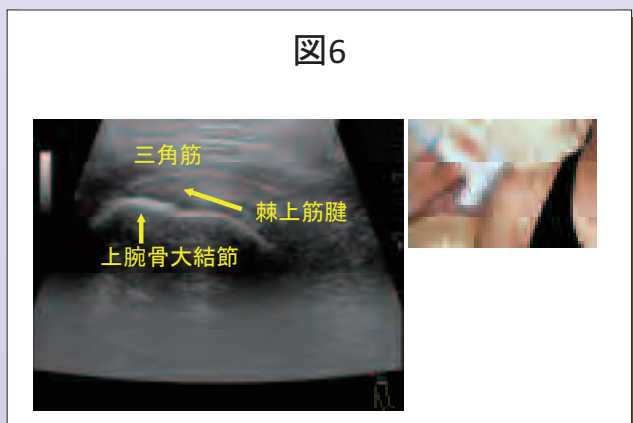
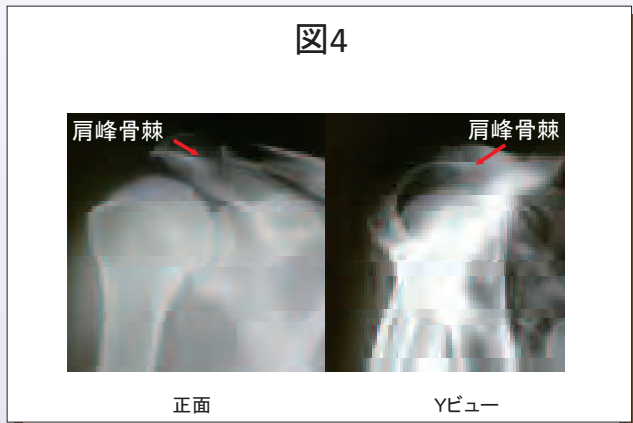
また、五十肩は拘縮、すなわち関節の動きが固くなりますが、腱板断裂でも拘縮になることがあります。整形外科にかかっている場合も多いようです。五十肩として治療を受けていて、半年たっても良くならないようでしたら、専門医を受診したほうが良いでしょう。

診断

診察では肩が挙上できるか、拘縮の有無、肩を挙上したときの肩峰の下での軋轢音、断裂部位の圧痛、筋力などを調べます。断裂部位が大きいと、棘下筋萎縮がみられます(図3)。



レントゲン写真では、肩峰の下に骨棘が見られることが多いです（図4）。MRIでは骨頭の上方の腱板（棘上筋腱）に白く映る高信号領域がみられます（図5）。また、エコーでも断裂の有無を確認できます（図6）。



治療

保存治療

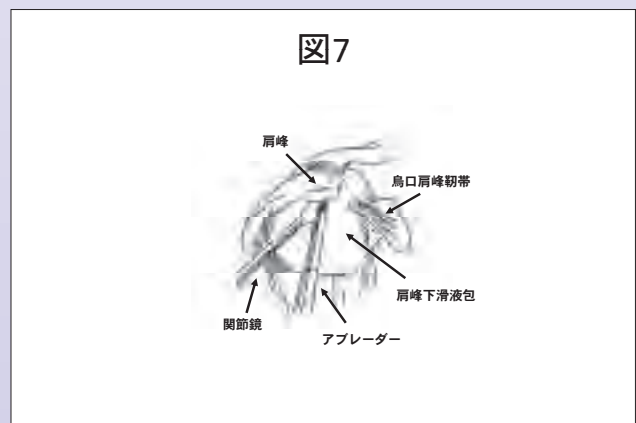
急性外傷で始まったときは、三角巾で1～2週間安静にします。断裂部が治癒することはありませんが、保存療法で軽快することが多いです。安静時痛、夜間痛が強い場合は、消炎鎮痛剤の内服、肩峰下滑液包内にステロイドやヒアルロン酸の注射を行います。腱板のすべてが断裂することは少

ないので、残っている腱板の機能を賦活させる腱板訓練を行います。

手術療法

活動性に高い人で、受傷後3ヵ月以上症状が続いている場合は、手術を要する可能性が高くなります。手術には、関節視下手術と創を開けて行う直視下手術があります。当院では主に関節鏡視下手術を行っております。そのメリットは、正常な組織である三角筋を損傷しない、診断および修復が正確かつ強固にできる、手術中、関節内を生理食塩水で常に流しながら行うので、感染が少ないなどです。手術ではまず、腱板の上にある骨（肩峰）の一部と靭帯を削り、腱板の通り道を広げます（図7）。次に断裂した腱板を、スーチャーアンカーを用いて上腕骨に縫いつけます（図8）。手術後の痛みは、麻酔科医師が全身麻酔の前に、エコーを使って頸部の神経の近くにチューブを留置し、麻酔薬を注入して痛みを和らげることが可能です。

手術後は肩外転装具を約3週間装着します。原則、装具がはずれてから退院となります。術後は、個人差がありますが、日常生活復帰は2ヵ月、軽作業は3ヵ月、重労働は6ヵ月で可能となります。



連携医療機関・関係機関のご紹介 第1回

旭川厚生病院との連携と当院の役割

医療法人社団萌生会サンビレッジクリニック

皆さんこんにちは、サンビレッジクリニック「在宅ケア連携室」の医療相談員・小山です。紙面をお借りして、当院の紹介をさせていただきます。

当院の沿革

サンビレッジクリニックは平成4年、在宅医療を旭川に広めることを目的に、院長・林が神居で開いた診療所です。開院当初から24時間・365日体制で在宅医療、在宅ホスピスを行ってきました。現在、林敏院長、加藤隆文副院長、小野沢圭子医師、古川倫也医師の4医師で、一般診療を行う傍ら、24時間体制の在宅医療を行っています。附属事業所として、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、ヘルパーステーション、訪問リハビリ、通所リハビリなど在宅の患者様やご家族を支えるための事業所を併設しています。

在宅医療・在宅ホスピスとは

在宅医療とは定期的に医師が患者様のご自宅を訪問し、診療を行うものです。では、在宅ってどんな診療・医療ができるのでしょうか。一言でいえば、病院の病室でできる医療であるといえます。具体的には、採血、点滴、在宅酸素療法、胸水・腹水の穿刺廃液などです。

残念ながら治癒する見込みのない患者様の場合、最後まで住み慣れた、愛するご家族と一緒に療養をしたいという方もいらっしゃいます。そういった方に提供している医療が、在宅ホスピスです。在宅ホスピスでは抗がん剤などを使った積極的な治療を行うことは稀です。がんによる痛みや、不安、ご家族の疲労などに対し、患者様・ご家族を中心に、医師・訪問看護師・ケアマネジャー・ヘルパーなど専門職がチームを作りサポートします。同じご病気でも、患者様の生き立ち、仕事歴、家族関係など一人一人のもたれている人生の背景は多様です。そういったお話を伺いながら、患者様の最後のかけがえのない時間を、ご家族とともに、悔いなく生き切っていただくのが在宅ホスピスの使命と考えています。

在宅医療・在宅ホスピス開始までの流れ

当診療所の在宅ホスピスが開始されるまでをご紹介します。まず、病院に入院中の患者様や外来に通院されて抗がん治療を続けられている患者様が、「家に帰って療養したい、外来通院は続けるが自宅で点滴などのサポートを受けたい」という思いを医療者に伝えることです。厚生病院の病棟・外来看護師、担当医師、または退院支援チーム、がん相談センターなど多くの職種の方が患者様の思いを受け止め、在宅ホスピスに導いてくれます。その後、在宅医や訪問看護ステーション、ケアマネジャーなど必要な職種で在宅ケアにかかわるチームを作り、厚生病院での退院前カンファレンス、あるいは在宅医療機関でのご本人・ご家族との面談を経て在宅医療が始まります。

特に退院前に行うカンファレンスは病院側・在宅側の関係者すべてが顔を合わせて話し合うことにより、患者様にとって「在宅医療開始後も、病院主治医との関係が切れることはなく、急なことがあればいつでも厚生病院へ入院できる」といった安心感につながる事が多く、大事な引き継ぎの場です。

このように拠点病院などの急性期病院と、在宅ホスピスを行う医療機関との相互連携は今後ますます重要になると思われます。最後の時を迎える場所は病院なのかご自宅なのか、難しい問題ですが、患者様が望まれる場所で最期の時を過ごしていただくことができるよう、これからも厚生病院との連携を密にし、地域医療に貢献していきたいと思っております。



後列左から 古川医師→林院長→加藤副院長
→小野沢医師→連携室看護師
前列左から 連携室看護師→連携室事務→連携室看護師

第1回

総合相談センター便り

旭川厚生病院では、皆様の困っていること等の相談に対応するため『総合相談センター』を設置しております。

また、地域の往診医やケアマネジャー、訪問看護師の方々と連携を取りみなさまの支援をおこなっていきます。

今回は、『総合相談センター』がどのようなものか、ご紹介いたします。

◎ 皆様の気になっていることを相談できるところです。

- ・ 入院費が高くて困った
- ・ 家に帰っても一人で生活に困ってしまう
- ・ 介護保険を利用したいけど、どうしていいのかわからない
- ・ 退院してもいいと言われたけど、退院しても自信がない
- ・ がんになって不安でいっぱい
- ・ がんの治療について話を聞きたい などなど



◎ 医療ソーシャルワーカーと看護師が対応いたします。

◎ がんの相談に関して直通電話があります。

◎ みなさまの秘密は守ります。

◎ 相談は無料です。

◎ 相談方法は直接窓口に来ていただくか、お電話で対応させていただきます。



わたし達が
対応いたします。

連絡先

総合相談センター：0166-33-7171

内線2285、2286

がん相談直通電話：0166-38-2201



病院薬剤師のお仕事



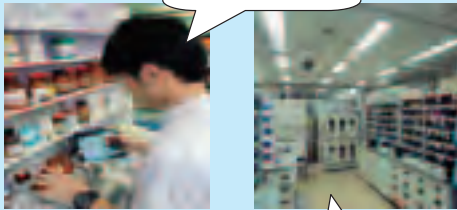
私たち病院に勤務している薬剤師が、患者さんの利益を守るために日常どのような仕事をしているかご存じですか？詳しくご存じの方は少ないと思います。今回の特集で、旭川厚生病院の日常の薬剤師業務について簡単にご紹介させていただきます。主に調剤業務、製剤業務、薬剤管理指導業務、薬品管理業務の大きく4つに分かれます。その他の業務についても簡単に掲載していますのでご覧になって下さい。



★調剤業務★

入院・外来患者さんのお薬を、医師の処方せんに基づいて調剤します。簡単に言うと調剤とはお薬を作ることです。その際に専門的な知識を生かし、お薬の種類や量、飲み合わせなどもチェックし、患者さんが適切なお薬による治療を受けられるようにします。

間違いなし。



異常なし。

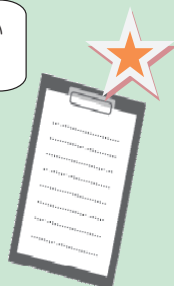


調剤室です。

★薬剤管理指導業務★

「薬を渡してくれる人」、「薬の相談にのってくれる人」が薬剤師とっていませんか？確かにそれも薬剤師の仕事です。しかし、それだけではありません。病院に入院している患者さんの中には「薬物治療」を行っている方がたくさんいます。そんな入院患者さんに対し、時に厳しく、熱く、お薬の必要性や副作用やその対策、予防法を指導することも薬剤師の仕事の一つです。また「薬物治療」は薬が正しく選択され、適正に使用されることが大前提です。そのため医師や看護師をはじめとする「チーム医療」のスタッフへの情報提供や助言も薬剤師の重要な役割となっています。当薬剤部では現在5病棟に薬剤師が常駐し、熱い薬剤管理指導を繰り広げています。

お変わりないですか



★製剤業務★

製剤と聞いて知っている人は、少ないと思います。製剤業務は、注射剤や軟膏剤を原料から作ったり、栄養に関わる点滴を混ぜて作っています。その他に抗がん剤の点滴を混ぜたあわせる業務もしています。抗がん剤の調製は、2階外科外来に隣接する化学療法点滴室の奥の無菌調製室で行っています。



化学療法点滴室です。

★薬品管理業務★

日常での薬品管理室の役割は、その名のとおり薬を適正に購入、保管、管理することです。当院で患者さんが、医師の診断に基づき最適な薬の治療を受けられるよう、院内の各部署へ毎日薬の供給を滞りなく行っています。薬は人の体に直接作用するものなので、使用期限や使用方法には細心の注意を払っています。

↓薬品管理室です。↓



患者さんごとに注射を用意しています。



★その他業務★

薬剤師は、その他にも緩和ケアチーム、NST(栄養サポートチーム)、ICTチーム(感染制御チーム)等に参加して、医師や看護師と共にチーム医療を展開しています。又、薬事委員会、治験審査委員会、化学療法委員会の事務局としても活躍しています。✨

●ホスピタルローソンがOPENしました!!

12月13日(月)にコンビニエンスストアのローソンが
当院1階に開店しました。

病院内への出店は道内で9番目とのことですが、やきたてのパンや道内初の試みの手作りおにぎり、介護用品等も取りそろえ、ATMも設置されています。

開店当日には、オープンセレモニーが行われ病院関係者とローソン関係者によるテープカットが終わると早朝より開店を心待ちにしていた方々が店内に続々と入店し、終日賑わいを見せていました。



■ローソン旭川厚生病院店
営業時間/7:00 ~ 21:00(年中無休)・ATM有り

●クリスマスコンサートが行われました♪

12月9日(木)に1階ホールにてクリスマスコンサートが行われました。

今回は、旭川室内合唱団のみなさんをゲストに迎え、「ジングルベル」や「赤鼻のトナカイ」など計12曲を披露して頂きました。

なかでもSilent Night(聖夜)は、患者さんたちをまじえての合唱となりました。また今回のクリスマスコンサートの参加者は、今までホールで行われたコンサートの中でも参加者が多く約170名の

参加者と職員でホールは大賑わいとなり25日のクリスマス先どった素敵な夜となりました。

旭川室内合唱団のみなさま、ご協力ありがとうございました。



●「外科手術体験キッズセミナー」を開催しました!!

当院では地域社会貢献活動の一環として、地域の中学生を対象とした「外科手術体験キッズセミナー」を12月4日(土)に開催いたしました。

当日は13名(女性9名、男性4名)の中学生が参加し、中野診療部長の「10年後皆さんの中から素晴らしい外科医が生まれることを期待している。」との挨拶に始まり、外科医・整形外科医の直接指導による縫合トレーニングや骨折の応急処置を学んだり、実際に手術室の見学や手洗いの体験をしたり、超音波凝固切開装置等による模擬手術を体験しました。



病院案内図



JA北海道厚生連旭川厚生病院

〒078-8211 旭川市1条通24丁目111番地3
TEL:(0166)33-7171 FAX:(0166)33-6075

●旭川厚生病院ホームページアドレス

<http://www.ja-hokkaidoukouseiren.or.jp/byouin/asahikawa/>



※PCサイトへ接続されるQRコードの為、うまく表示されない場合があります。